

1 頸動脈プラークスコアおよび CAVI と脳
2 梗塞の関係について
3

4 金徳男(東邦大学医療センター佐倉病院)、高橋修
5 (東邦大学医療センター佐倉病院)、片岡学(東邦大
6 学医療センター佐倉病院)、黒須巧(東邦大学医療セ
7 ンター佐倉病院)
8

9 高度頸動脈硬化は脳梗塞の発症リスクを高めること
10 は知られているが、頸動脈プラーク進展の程度に応
11 じたリスクの増加に関しては、MRI 等を用いた詳細
12 な検討は少ない。我々は頸動脈エコー検査による頸
13 動脈プラークスコアと MRI により診断された脳梗塞
14 の関係について検討した。また、動脈硬化の指標と
15 される CAVI との関係も検討した。(対象と方法)対
16 象は2008年より当院でMRI検査と頸動脈エコーおよ
17 び CAVI の検査を行った79例である。頸動脈エコー
18 検査にて頸動脈プラークを測定し、頸動脈プラーク
19 進展度として頸動脈プラークスコア(PS)を算出した。
20 MRIにて脳病変を脳梗塞、ラクナ梗塞、白室病変、
21 非脳梗塞に分類し比較を行った。CAVIは、フクダ電
22 子社製バセラ1500にて測定した。なお上記3検査は
23 頸動脈エコー検査と1ヶ月以内に行ったものを採用
24 した。(結果)頸動脈エコー検査で、頸動脈にプラーク
25 を認めなかったのは17例(無PS群)、PSが5未
26 満は24例(低PS群)、PSが5以上で10未満は19
27 例(中PS群)、PSが10以上は16例(高PS群)。MRI
28 により診断された脳梗塞は、無PS群で2例(11.8%)、
29 低PS群で9例(37.5%)、中PS群で6例(31.6%)、
30 高PS群で9例(56.3%)であった。PSが高くなる
31 につれて、脳梗塞の頻度の増加がみられ、高PS群で
32 は無PS群に比べて脳梗塞が高率にみられた。(結語)
33 頸動脈エコー検査によるプラーク進展度は、脳梗塞
34 の発症や程度に関係することが示唆された。および
35 脳梗塞群で CAVI が、非脳梗塞群に比べて高値であっ
36 た。

37 TEL(043-462-3770)、内線(2436)
38
39